

小中学生のお子さんを持つ保護者のための
インターネットセーフティガイド
～ 親子で歩むリスク回避の4つのステップ ～ 後編



子どもたちのインターネット利用について考える研究会

目次

前編

1. 親の本音と携帯電話の普及
2. 実態としての子どもへの普及
3. トラブルへの懸念
4. トラブルの影響の大きさ
5. トラブルの構造理解
6. 警察による違法行為の摘発
7. トラブル回避に向けた取り組み
8. 学校における取り組み
9. サイト事業者の自主規制(ゾーニング)
10. 通信事業者等による制限サービスの提供
11. 通信事業者等による制限サービスの限界
12. 家庭が果たす役割

後編

16. 保護者が行うべき対策
17. 「段階的利用」とは
18. 「段階的利用」の基本的な考え方(1)
19. 「段階的利用」の基本的な考え方(2)
20. 各ステップの区切りを決める要素
21. インターネット利用環境の整備と管理
22. 子ども能力の見極め
23. 子ども能力の見極めと4つの段階
24. 保護者に求められる知識
25. 利用させる機器の特性
26. 段階的利用の全体像
27. 求められる能力と環境の整備 - ステップごとに解説
28. 「ゴール」として目指すもの
29. 本格的にインターネット利用をさせていない場合にすべきこと
30. 既にインターネット利用を始めている場合にすべきこと
31. まとめ

保護者が行うべき対策

子どもの能力に合わせた「段階的利用」の提案

「段階的利用」とは

きちんとした知識や技術を身につけないまま利用すると、未熟な自動車運転と同様、本人や周囲を巻き込む大きな事故につながる可能性がある



インターネットも子どもが身につけた(身につけさせた)能力にあわせて、段階的に利用許可を行う必要があるのでは？

インターネット利用の開始(解禁)を
自動車の運転講習に例えると.....

「段階的利用」の基本的な考え方(1)

自動車講習

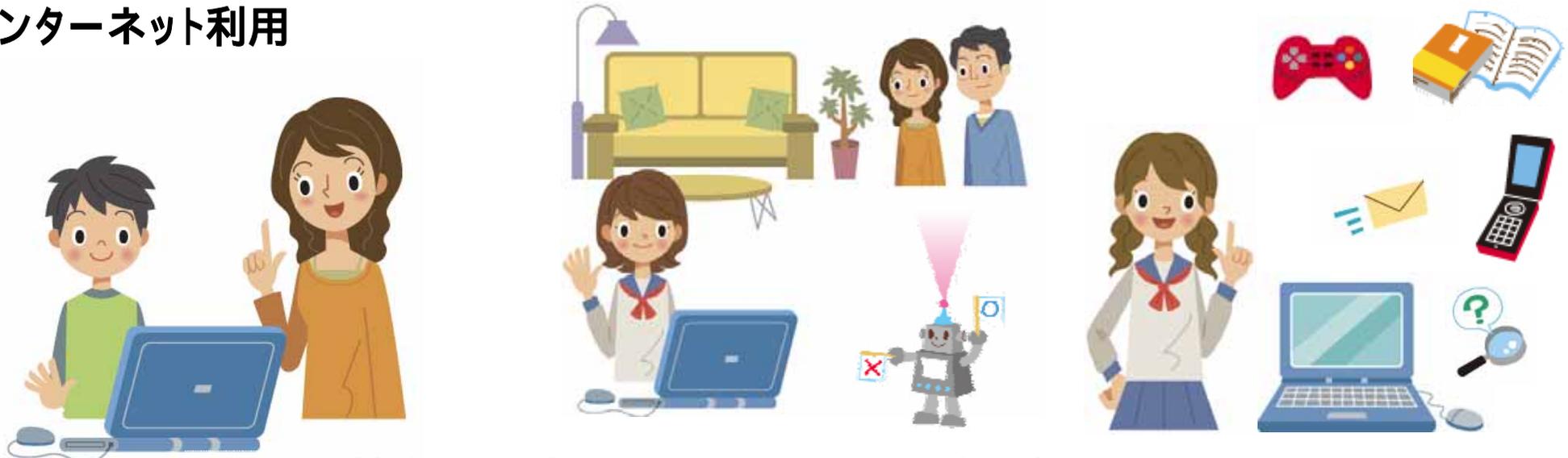


指導者が同席して利用

制限範囲内での利用

利用解禁

インターネット利用



きちんと技術や知識を習得していないと、被害者になるだけでなく、加害者として、周囲を巻き込む大きな事故につながる可能性がある

各ステップの区切りを決める要素

1. インターネット利用環境の整備と管理

推進的要素

- 通信機器(携帯、PC、ゲーム等)を与える
- メールの送受信機能の利用を認める
- インターネット接続機能の利用を認める



制約的要素

- 特定の相手以外とのメール利用は認めない
- 子どもだけでの利用は認めない
- 特定のサイト以外の閲覧は認めない(フィルタリング・ホワイトリスト方式)
- 特定分野サイトの閲覧利用は認めない(フィルタリング・ブラックリスト方式)



2. 子どもたちの能力の見極め



モラル・コミュニケーション面



知識・スキル面

1. インターネット利用環境の整備と管理



利用できる機能自体を制限する仕組みやサービスの活用

- 利用者アカウントごとの権限を設定する(パソコン)
- ソフトのインストールを制限する(パソコン)
- インターネット関連機能の利用契約を行なわない(携帯電話)



1. インターネット利用環境の整備と管理



利用時間のルール策定、管理

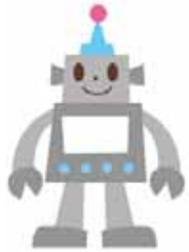
- 家庭内での利用時間に関するルールを作る
- 制限ソフトや機能(フィルタリング)を用いて、利用時間による制限やパケット量、料金課金による制限を行う



利用内容の把握、利用履歴のチェック

- 閲覧履歴(アクセス履歴)のチェックを行い、利用内容の把握を行う

1. インターネット利用環境の整備と管理

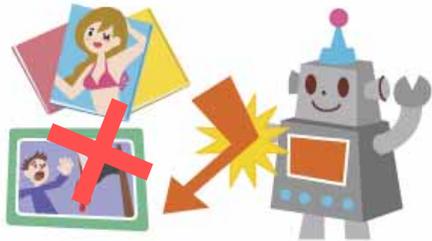


利用範囲の制限(フィルタリング)

■ 制限分野の例



熱中・時間浪費の可能性のあるサイト
(懸賞・ゲーム・動画など)



本来は成人向きであり、知識・経験・判断力を要するサイト
(グラビア・ホラー映画・超常現象・パロディ・極端な主張など)



不適切コンテンツ・サイト
(違法・薬物・自殺・出会い・恐怖・ポルノ・ギャンブル・飲酒・喫煙など)

1 インターネット利用環境の整備と管理



利用させる場所と保護者の関わり方

- 保護者が隣で一緒に使う、見守る
インターネットの利用方法を教えるとともに、予期せぬ危険なサイトとの遭遇を防ぐ
- 保護者の目が届く場所で使わせる
トラブル遭遇時にすぐに相談・対処できるようにする
- 制限付きで自室に持ち込むことを許す
利用上のルールを子どもとともに作成し、フィルタリングによる見守りを必須とする



2.子どもの能力の見極め

子どもたちにインターネットを利用させる際に 育てなければならない「2つの能力」



「2つの能力」のどちらかが劣っていたり、
欠けているとトラブルを起こすことになる

2. 子どもの能力の見極め

能力を見極める4つの段階



ステップ1 - 体験期 (小学校中学年能力相当)



ステップ2 - 初歩的利用期 (小学校高学年能力相当)



ステップ3 利用開始期 (中学生能力相当)



ステップ4 - 習熟期 (高校生能力相当)

子どもの能力の見極めと4つの段階 ステップ1

子どもたちのインターネット利用について考える研究会



ステップ1 (体験期)を迎えるために必要な能力と、目安となるシーン



モラル・コミュニケーション面で必要な力

1. 約束や決まりを守ることができる
2. 危険なことに出会ったら大人に相談できる



知識・スキル面で必要な力

3. インターネット上には危険なウェブサイトや誤った情報が存在することを知っている
4. 個人情報の大切さ、他人に漏らしてはいけないことを知っている

他人に緊急連絡網を聞かれても教えない



クラスの名簿を貸して
てくれないかな？

危険なことに出会ったことを親に報告する



保護者がすべきこと
家庭のルールを決めて守らせる

子どもの能力の見極めと4つの段階 ステップ2

子どもたちのインターネット利用について考える研究会



ステップ2 (初歩的利用期)を迎えるために必要な能力と、目安となるシーン



モラル・コミュニケーション面で必要な力

5. 相手や目的に応じて、適切に文章を書くことができる
6. 他人を思いやり、相手の気持ちを考えた行動ができる
7. 健康や学習を優先し、節度のある使い方ができる



知識・スキル面で必要な力

8. メールなどインターネット上での情報発信は、書いた内容の記録が必ず残ることを知っている
9. 情報が正しいかどうかを調べて、信憑性を確認することができる

ドッチボールで負けたときにチームのメンバーを笑わない、人のせいにしない



おじいちゃん、おばあちゃんに手紙を書く



保護者がすべきこと

- 子どもが自ら節度ある行動ができるよう促す
- 子どもの言動に注意して、不適切な言動は注意する

子どもの能力の見極めと4つの段階 ステップ3



ステップ3 (利用開始期)を迎えるために必要な能力と、目安となるシーン



モラル・コミュニケーション面で必要な力

10. 礼儀の意義を理解し、時と場合に応じた適切な言動を用いたり、文章表現をすることができる
11. よく考えて行動し自分の行為に責任を持つことができる
12. コミュニケーショントラブルが生じた場合には、客観的に自分と相手の状況を判断し、冷静に行動できる



知識・スキル面で必要な力

13. ネット上のコミュニケーションは、対面に比べて情報量が制限されるので誤解やトラブルが生じやすいことを知っている
14. ネット上に書き込むことは、世界中に情報を公開することだと知っている
15. ネットを利用する上で必要な、基本的な法律やルールを知っている

駅で乗り換えに迷ったときに駅員にきちんと相談できる

聞いた話をうのみにせず、客観的に判断する



保護者がすべきこと

口伝えの話が事実と異なる場合があるなど、情報の特性を伝えるさまざまな場面に応じた対処法を、シミュレーションさせてみる

子どもの能力の見極めと4つの段階 ステップ4 子どもたちのインターネット利用について考える研究会



ステップ4 (習熟期)を迎えるために必要な能力と、目安となるシーン



モラル・コミュニケーション面で必要な力

16. 契約の内容を正確に把握し、適切に行動することができる
17. 情報社会の一員としての自覚を持ち、責任ある行動ができる



知識・スキル面で必要な力

18. インターネットの特性(公開性・記録性・信憑性・公共性・侵入可能性)について理解している
19. トラブルを事前に予測し、できるだけ回避するための工夫ができる

自分で調べて、旅行などの計画を立て予約を取れる



保護者がすべきこと

情報収集や意思決定させる機会を与え、そのやり方をチェックし、よりよい方法をアドバイスする

保護者に求められる知識

Q. 能力を見極めるために、
保護者は子どもよりも使いこなせなければいけない？



A. インターネット固有の能力はごくわずか。
国語や道徳で学ぶ内容や基本的な社会のきまりや約束ごとが主
保護者は**利用させるサービスや機器の特性と難易を理解すれば大丈夫**

利用させる機器の特性

携帯電話などのポータブル機器の特性

- 保護者が見守ることが難しい
家の中で使うパソコンと異なり、携帯の場合は
外で使うことが前提
- 常に手元にある
距離を置くことが難しい(依存、中毒性)
- 画面が小さい
文字情報の読み分けが難しい
感情的になりやすい



次の段階に進むために必要な力

モラル・コミュニケーション能力面で必要な力

知識・スキル面で必要な力



- 1. 約束や決まりを守ることができる
- 2. 危険なことに出会ったら大人に相談できる
- 3. インターネット上には危険なウェブサイトや誤った情報が存在することを知っている
- 4. 個人情報の大切さ、他人に漏らしてはいけないことを知っている

- 5. 相手や目的に応じて、適切に文章を書くことができる
- 6. 他人を思いやり、相手の気持ちを考えた行動ができる
- 7. 健康や学習を優先し、節度のある使い方ができる
- 8. メールなどインターネット上での情報発信は、書いた内容の記録が必ず残ることを知っている
- 9. 情報が正しいかどうかを調べて、信頼性を確認することができる

- 10. 礼儀の意義を理解し、時と場合に応じた適切な言動や文章表現ができる
- 11. よく考えて行動し、自分の行為に責任を持つことができる
- 12. コミュニケーショントラブルが生じた場合には、客観的に自分と相手の状況を判断し、冷静に行動できる
- 13. インターネット上のコミュニケーションは、対面の場合に比べて情報量が制限されるので誤解やトラブルが生じやすいことを知っている
- 14. インターネット上に書き込むことは、世界中に情報を公開することだと知っている
- 15. インターネットを利用する上で必要な基本的な法律やルールを知っている

- 16. 契約の内容を正確に把握し、適切に行動することができる
- 17. 情報社会の一員としての自覚を持ち、責任ある行動ができる
- 18. インターネットの特性(公開性・記録性・信憑性・公共性・侵入可能性)について理解している
- 19. トラブルを事前に予測し、できるだけ回避するための工夫ができる

1. 体験期

2. 初歩的利用期

3. 利用開始期

4. 習熟期



保護者が隣で見守る



リビングルームなど
在宅している保護者の目の届くところでの利用



家庭の状況、子どもの
能力や意志に応じて、
自室へのパソコン
持ち込みも認める

携帯電話による
インターネット利用

(通話)

保護者など特定の相手
とのメール利用を認める

保護者が定めた特定少数
サイトの閲覧利用を認める

フィルタリング付き(ブラックリスト)での
閲覧利用を認める

不特定とのメール含む
発信的利用を認める

意見交換や
オンライン交流を認める

パソコンによる
インターネット利用

サイト閲覧を認める

メールの利用を
認める

自分の管理する
ページでの発信を
認める(プロフ・ホ
ムペ・ブログ)

不特定多数
の場での意見
交換を認める
(掲示板)

同期的対
話利用を認
める
(チャット)

オンライン
交流を認
める
(SNS)

ネットでの買い
物を経験する

フィルタリング
サービスの利用





体験期に進むために必要な能力

(小学校中学年能力相当)



モラル・コミュニケーション面で必要な力

1. 約束や決まりを守ることができる
2. 危険なことに出会ったら大人に相談できる



知識・スキル面で必要な力

3. インターネット上には危険なウェブサイトや誤った情報が存在することを知っている
4. 個人情報の大切さ、他人に漏らしてはいけないことを知っている



保護者が行うべき施策
(見守り、
利用環境の整備)



・利用時は保護者が隣で見守る



インターネットの
利用について



・通話のみ、インターネットの利用を認めない



・サイト閲覧を認める



初歩的利用期に進むために必要な能力

(小学校高学年能力相当)



モラル・コミュニケーション面で必要な能力

- 5. 相手や目的に応じて、適切に文章を書くことができる
- 6. 他人を思いやり、相手の気持ちを考えた行動ができる
- 7. 健康や学習を優先し、節度のある使い方ができる



知識・スキル面で必要な力

- 8. メールなどインターネット上での情報発信は、書いた内容の記録が必ず残ることを知っている
- 9. 情報が正しいかどうかを調べて、信憑性を確認することができる



保護者が行うべき施策
(見守り、
利用環境の整備)



保護者の
関わり方

- ・利用時は保護者が隣で見守る
- ・リビングルームなど在宅している保護者の目の届くところで利用させる



フィルタリング



インターネットの
利用について



- ・保護者など特定の相手とのメール利用を認める



- ・メールの利用を認める



利用開始期に進むために必要な能力

(中学生能力相当)



モラル・コミュニケーション面で必要な能力

- 10. 礼儀の意義を理解し、時と場合に応じた適切な言動を用いたり、文章表現をすることができる
- 11. よく考えて行動し自分の行為に責任を持つことができる
- 12. コミュニケーショントラブルが生じた場合には、客観的に自分と相手の状況を判断し、冷静に行動できる



知識・スキル面で必要な力

- 13. インターネット上のコミュニケーションは、対面の場合に比べて情報量が制限されるので誤解やトラブルが生じやすいことを知っている
- 14. インターネット上に書き込むことは、世界中に情報を公開することだと知っている
- 15. インターネットを利用する上で必要な基本的な法律やルールを知っている



保護者が行うべき施策
(見守り、
利用環境の整備)



- ・利用時は保護者が隣で見守る
- ・リビングルームなど在宅している保護者の目の届くところで利用させる



インターネットの利用について



- ・保護者が定めた特定少数サイトの閲覧利用を認める
- ・自分の管理するページでの発信を認める(プロフ・ホームペ・ブログ)
- ・不特定多数の場での意見交換を認める(掲示板)



習熟期に進むために必要な能力
(高校生能力相当)



モラル・コミュニケーション面で必要な能力

- 16. 契約の内容を正確に把握し、適切に行動することができる
- 17. 情報社会の一員としての自覚を持ち、責任ある行動ができる



知識・スキル面で必要な力

- 18. インターネットの特性(公開性・記録性・信憑性・公共性・侵入可能性)について理解している
- 19. トラブルを事前に予測し、できるだけ回避するための工夫ができる



保護者が行うべき施策
(見守り、
利用環境の整備)



保護者の
関わり方

- ・リビングルームなど在宅している保護者の目の届くところで利用させる
- ・家庭の状況、子どもの能力や意志に応じて、自室へのパソコン持ち込みも認める



フィルタリング



インターネットの
利用について



- ・フィルタリング付き(ブラックリスト)での閲覧利用を認める
- ・不特定とのメール含む発信的利用を認める
- ・意見交換やオンライン交流を認める



- ・同期的対話利用を認める(チャット)
- ・オンライン交流を認める(SNS)
- ・ネットでの買い物を経験する

「ゴール」として目指すもの

- インターネットを安全に活用していくためには、成長段階に見合った「必要経験」と「知識の習得」が必要
- 「ステップ4」はゴールではなく、あくまで最低限の知識とスキルを身につけたスタート地点
- インターネットと上手に付き合える大人になることがゴール



本格的にインターネット利用をさせていない場合 子どもたちのインターネット利用について考える研究会

ステップ1から歩む理想パターン

- **パソコンのネット利用から始めること**
 - 保護者による見守りや指導が行いやすい
 - 利用ソフトの制限やフィルタリングサービスの活用
 - 次のステップを子どもに伝えてもよい
- **携帯電話を持たせる際は十分な制限を設けること**
 - 通話のみ、保護者とのメール利用のみといった機能制限
 - 学校等で必要とする連絡掲示板のみ利用といったサイト制限



既にインターネット利用を始めている場合

ステップ途中から開始する修復パターン

- **現状の利用状況の把握**
 - 利用範囲や利用方法の程度を見極めることが必要
- **子どもの能力の確認**
 - 「取り消せないこと」「公開されていること」「匿名性が無いこと」「自分が損をすること」の理解度の確認および指導が重要
- **親が察することの出来る範囲で使わせる**
 - 急に取り上げることは反発といったリスクにつながる恐れがある
 - 保護者が子供の能力状況を意識しながら見守っていくことが重要



子どもだけではなく、保護者も学び、変わる必要があります

保護者が正しい知識を持ち、適切に判断し対処することが最も重要です

- 子どもとの対話や日頃の生活に目を向け、気を配りましょう
- トラブルを未然に防ぐために、保護者間での情報交換を行いましょ
- どのような事に興味関心があるのか、子どものインターネットの利用状況を把握し、いけないことを行った場合にはきちんと指導をしましょう
- 子どもに使い方を教えてもらい、保護者も実際に使ってみましょう

インターネット特有の問題は少なく、
本質的には子育ての一環です



子どもたちのインターネット利用について考える研究会

公式サイト <http://www.child-safenet.jp>

